

がく じ 学 而

摂南大学図書館報

No.96 2015.3



▲「河内名所図会」巻六

衾子絶間(ころものこたえま)

本学寝屋川キャンパスから約200m北の淀川堤防近くに太閤天満宮があり、衾子絶間(ころものこたえま)の石碑が建てられています。

「日本書紀」によれば仁徳天皇11年(5世紀)に淀川の氾濫を止めるため「茨田堤」(まんだつつみ)を建造しました。この築堤工事は非常な難事業で、どうしても2箇所の切れ目をつなぐことが難しく、天皇が「武蔵国の強頸(こわくび)と河内国の茨田連衾子(まんだのむらじころものこ)の二人を川の神に供えて祭ったならば堤はすぐにできる」という夢でのお告げを聞き、そのとおり実行することになりました。強頸は泣く泣く人柱となった一方、衾子は機智を働かせ、「ひさご(瓢箪)を川に投げ入れ、もし浮いて流れるようだったら、私は人柱になることはできない」と宣言して流すと、ひさごは沈みませんでした。衾子は宣言どおり犠牲にならずに堤が完成しました。

本挿絵は「河内名所図会」巻六の中でこの有名な一節を描いたものです。その後、堤は無事完成し、2箇所の切れ間のことを「強頸絶間(こわくびたえま)」(大阪市旭区千林周辺)、もうひとつを「衾子絶間(ころものこたえま)」(寝屋川市太閤町)ととなえてきましたが、後の世になって「絶間」がなまって「たいま」となり、現在の「太閤」という地名になったとされています。

(参考:寺前治一「寝屋川史話100題」No.007、寝屋川市HPなど)



▲太閤天満宮



▲「茨田堤」碑(本学学舎を望む)



▲衾子絶間跡石碑

<CONTENTS>

図書館と親しみ、読書の楽しさを知る

- 図書館長 福田 市朗 2
 本との出会いを大切にする方法
 薬学部 教授 大塚 正人 4
 検索による未発見歴史資料の発掘
 経済学部 准教授 牧野 邦昭 6

【ビブリオバトル特集】

- 1年次法学基礎教育におけるビブリオバトルの可能性と残された課題
 法学部 准教授 城内 明 8
 枚方分館ニュース 10
 利用者 アンケート結果紹介 12
 学生推薦図書 14
 図書館利用統計 15
 摂大文化大賞、編集後記 16

図書館と親しみ、読書の楽しさを知る

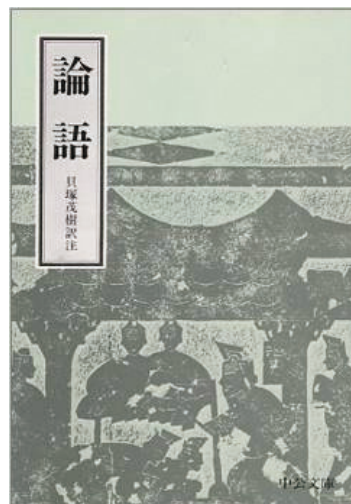
図書館長 福田 市朗

今より 31 年前、1984 年 10 月に図書館報『学而(がくじ)』が創刊された。初代図書館長の布目潮風先生は、題字『学而』に託した意味について、“教室の中だけではなく、図書館における自発的な学びも大切である”と説いている。『学而』は、戦乱が続く社会の安寧と秩序を得るために孔子が残した言行録『論語』の第 1 巻第 1 篇から戴いた題字である。今日、『論語』を読むことは少なくなったと思われるが、私たちの学びの大切さを説くものであり、図書館の使命を語る上で欠かせないので、再度取り上げてみたい。

《子曰、学而時習之、不亦説乎、有朋自遠方、不亦楽乎、人不知而不愠、不亦君子乎》
学んで時(ここ)に習う、亦説(よろこ)ばしからずや。有朋(とも)、遠きより方(なら)び来る、亦楽しからずや。人知らずして愠(いか)らず、また君子ならずや。「ものを教わる。そして後から練習する。なんと楽しいことか。友達が遠くからそろって来てくれる。なんとうれしいことか。他人が認めないでも気にかけない。なんとおく(奥)ゆかしい人柄ではないか」(『論語』第 1 巻、第 1、学而篇、貝塚茂樹訳注、中公文庫、p.8)。

私たちは本を通して先人たちの知を学び、その知を生活の中で活かし、自らの人生を豊かにすることができる。学びの喜びは単に知識の量を増やすことだけではなく、その知識を活かして初めて味わえる喜びなのである。

実は、“本を通して人を知り、人を通して本を知る”ことを目標とした活動が大学ばかりでなく、町の図書館や高校の図書館を中心に広がっている。この活動は“ビブリオバトル(Biblio-battle)”と呼ばれ、知的書評合戦と称されている。始まり



は 2007 年ごろ大学院生たちの輪読会にあったと思われる。研究を進め、論文を書くことは大学における学びの成果である。そのために多くの文献や資料をひも解き、活発な議論が必要であった。自分の考えや思考法を正していくには友人との議論が欠かせない。学びには、「問いを深める」哲学的な姿勢と、その問いに対する「答えの確実さを高める」科学的な態度が欠かせない。いずれも師を得て、友を得て高められる。

本学でも図書館学生サポーターの有志を得て、2014 年度よりビブリオバトルが開催され、多くの学生が自分の読んだ本を紹介してくれた。その中で気づいたことの一つに、今日の学生が好む本と、昭和を生きてきた私たちの好む本はまったく違うことであった。活字文化に染まった学生時代の私は、難解な哲学書や思想書を知ったかぶりで他の学生に話していたように思う。また、自分の心情を代弁してくれる本を好んでいたように思う。しかし、今の学生は活字だけの世界にとどまらず、音楽や映像などの他の感性を通して本を読んでい

るように思う。また、分かりやすさを大事にし、難解な本は敬遠されているように感ずる。読書に対する考え方が異なるとともに、背景となる価値観や世界観も異なるためであろう。

ところで、論語の『第1巻、第2、為政篇』には、『子曰、学而不思即罔、思而不学即殆』学びて思わざれば即ち罔（くら）く、思いて学ばざれば即ち殆（うたが）うと説かれている。「ものを習っているだけで自分で考えてみないと、まとまりがつかない。考えているだけで、ものを習わないと疑いが出てくる」（同上、中公文庫、p.45）。簡単に言えば、教えられたことも自分のものとならない限り、迷うだけ。また、あれこれと考えても学びがなければ危なっかしいことだと解釈できる。

大学での学びは、教員から知識を教わるという受動的な学習態度から、学生が主体的に学ぶという積極的な学習態度へと質的な転換を求めている。現実社会に貢献できるような学びが求められているのである。

図書館は静かに読書をし、深く咀嚼し、知識を自分のものにするところという昔と変わらない一般的な認識がある。この図書館に対する認識は今でも変わらない。しかし、自分の獲得した知識は他者への影響力を持つことによって初めて活かされる。大学における学びの本当の喜びは、他の人々にとっても楽しいものでなくてはならない。その意味からすると、図書館は知の探究源であるとともに、知の発信基地となるべきであろう。これからの図書館の使命は、読書を通して獲得した知識を血や肉として活かすことにあろう。それは、本学が掲げているタグライン—Smart & Human—の具現化でもある。

最後に、論語の『第3巻、第6、雍也篇』に述べられている学問論を紹介する。『子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者』『ものごとを理解する人は、これを愛好する人になれない。愛好する人は、楽しんで一体となっている人になれない』と説かれている。貝塚の訳注には、伊藤

仁斎の言葉を借りて、「道を知るものは、義理明白で議論はきく（聞く）べく、人は皆たつとぶ（尊ぶ）けれども、これを好むものが、終身衰えず、いよいよ進み、いよいよ熟するに及ばない。これを好むものは人皆信ずるけれども、楽しむものが道とひとつになって、まったく区別できなくなるまで至っているのに及ばない。道はひとつであるが、行なうところ生熟・深淺がある。孔子のこのことばは、生より熟に至り、浅きより深きに至ることを望んでいるのである」と解釈し、学問は愛知（知を愛すること）であり、対象と一体となることによって最高の境地に達するという学問論の根本が述べられているとする（同上、中公文庫、p.166）。知識は多いに越したことはない。知らないよりは知っている方がいい。けれども単に知っているものよりこれを好んでいるものがすぐれており、さらに、好きだというものよりこれを楽しむものがより優れている。私の単純な捉え方であるが、本を読んで知識が増えたことを自慢するのは愚であり、最も重要なことは知識を得て自分の生き方を豊かにすることである。当然ながら、この楽しみは自己満足の世界ではなく、他者を巻き込み、他者と共に喜べる世界を意味する。図書館が知の発信基地となるには、私たちの学びが楽しいと言えるような仕組みを利用者に提供することであろう。

私たちは自分の意見や考えを他者に話すことを通して、より鮮明にすることができる。相手に聞いてもらうことによって、自分の考えを明確にすることができる。図書館が主催するビブリオバトルや教員および学生による図書の選定、あるいは摂南大学文化大賞などの様々な行事はそのような仲間づくりを促進させるものである。「知る者はこれを好く者に如かず、これを好く者はこれを楽しむものに如かず」である。読書の楽しみを自分の世界にとどめるだけでは惜しい。読書で得た喜びが他者の喜びとなるようにしたい。

本との出会いを大切にする方法

薬学部 教授 大塚 正人

自分にとって良い本と出会いたい

読書は人間を豊かにしてくれる。そういう目的で読書をしている人も多いと思います。実は私もその一人ですが、つい読書に「過度な見返り」を求めてしまいます。「この本を読むと、自分を変えられるかも知れない」とか、「この新しい仕事術で仕事ははかどりそうだ」とか、ワクワクしながら期待して本を選ぶのです。毎日忙しいのに、読書の時間をわざわざ作って本を読むのですから、期待しないわけにはいきません。「自分にとって良い本と出会いたい」という欲求は強くなるばかりです。では、どうやって良い本と出会うのか？そのためには、実際に書店に行って、「この本、読んで見たいな」と思う本を手にとって、タイトル、作者の情報、装丁の具合や帯のキャッチコピーなどを見て確かめるしかありませんでした。その際の直感というか、フィーリングで買うかどうか決めるのです。この直感力は経験によって養うことが出来るので、書店に足繁く通えば良い本に出会う確率はだんだん上がっていきます。また、最近は書店の店頭だけでなく、Amazon等のインターネット通販で本を買う機会も増えてきました。実際、Amazonのランキングやクチコミ、新刊.netの注目キーワードなども、本との出会いに役立ちます。最初は、他人の書評なんて価値観違うだろうし、参考にならないと思っていましたが、実際に書評を読んで面白そうだった本には当たりの多い気がします。また、学生さんたちには、自分が読んで面白かった本は積極的に紹介しています。そうすると、学生さんから、最近読んだ面白い本の話聞く機会がだんだんと増えていきます。そういう経験を通して、「本との出会いは結局、人との出会いの延長線にあるのだ」と思っています。一人の人間が一生に出会う本の冊数なんて、たかが知れています。だから、本との出会いは大切にしたいと思います。ビブリオバトルというイベントは、自分が良いと思った本を他人に紹介する力を競っています。そういう機会に出来るだけ参加することで、多くの人と知り合い、本にたくさん出会いたいと思います。

本との出会いを大切にしたい

私は、読んだ本の要約や感想、その他思ったことを一冊のノートに記録しています。なぜなら読んだ本の内容を、生涯正確に記憶しておくことは不可能だからです。また、忘れっぽい性格なので、前に読んだ本

を、もう一度買ってしまったりします。そういうことを防ぐために、ノートにいつどんな本を読んだのか、タイトル、作者名、出版社名、ISBN、印象的な内容等を記録するようにしています。本を読んでいるときには、手元にそのノートを一緒に置いておき、気になる内容があれば記録するのです。そのノートはいつも持ち歩き、移動中や寝る前などに見返すことで、読んだ本の内容のうち、自分にとって重要な部分を思い返す事が出来ます。

私は、本と出会った際にもこのノートを使っていました。書店で読みたい本を見つけても冊数が多くなったり、買うのを迷ったりして、出会った本を全部買えない場合があります。そんなとき、店内でメモをとったり写メを撮ったりすることは違法なので、タイトルなどを覚えて帰ってPCで検索し、書評なども読んだ上で必要な情報をノートに転記します。しかし、これって結構時間がかかるのです。せっかく書店で仕入れた良い本の情報を忘れてしまうこともあります。書店によっては本のタイトルや価格の載ったページを印刷してくれるサービスがあるところもありますが、私は以前から、読みたい本を手軽に記録し、整理して保存できるように仕組みがあればいいと思っていました。そんな時に、本学図書館のホームページ（HP）上に気になるリンクを見つけました。

ブックログ（Booklog）について

この、「学而」を読んでいる方ならご存じでしょうが、本学図書館のHPを見ると、左側メニュー下に、ブックログへのリンクがあります。



摂南大学図書館蔵書分館のブックログ

ブックログとは、約88万人が利用している、仮想本棚を作成できるwebサービスです。自分が出会った本を「読みたい」「いま読んでいる」「積読」「読み終わった」と分けて記録することができるので、自分の部屋の本棚にある本も、手元にない本も、すべての本を管理することができます。また、ブックログは他人の本棚を通して新しい本と出会える、ブックコミュニティと言えます。図書館のブックログのリンクをクリックすると、本学図書館（本館もしくは枚方分館）のブックログのトップページが現れます。枚方分館のブックログのページは、特に頻繁に更新されていて、図書館に入荷した新刊がWeb上の仮想本棚に並べられています。その本の表紙にマウスのポインターを合わせると、選定図書であれば、先生の推薦コメントが出てきます。このブックログについて私は最初、「自分が読んだ本を管理するのに結構いいな」くらいにしか思いませんでした。ところが実は、このブックログは、「良い本との出会い」にその真価を発揮してくれるWebサービスだったのです。

ブックログ + iPhoneで良い本との出会いが急増

ブックログはWebページとしての存在だけでなく、iPhoneのアプリとして稼働し、互いに同期しています。特に私が重宝している機能は、iPhoneのブックログアプリで読みたい本が簡単に登録出来ることです。iPhoneのカメラで本のバーコードを読み取るだけで、その本が自分のブックログの本棚に即座に登録されます。これには感動すら覚えました。しかも、本は表紙の写真を表示して仮想本棚に配架されるので、とても分かりやすく、どんどん登録する事が出来ます。ただ、書店では、iPhone片手に本のバーコードをスキャンすることには、マナー違反になる可能性があります。前述の、本の情報を印刷してくれるサービスを利用するのも一つの方法です。ある書店の方に伺ったところ、本の内容を撮影するのでなければ、本のタイトルを店頭でメモしたり写メで撮ったりする事は大丈夫とのことですが、違法行為と間違われる可能性があるので気をつけた方がいいでしょう。店内撮影禁止という張り紙のある書店も多いです。それに書店でバーコードをスキャンしなくても、このアプリを使うと、今までより多くの良い本に出会えます。[本と出会う]というメニューがあり、クリックすると、新刊や本のランキングが、本棚に配架された本のように表示されます。まさに本と出会う瞬間です。また、背表紙で配架したり、リスト表示したりすることも可能です。登録した本は、[Amazonで買う] ボタンを押せば購入出来ますし、クリック一つで本好きの人たちの書評を読む事も出来ます。また、書店に行ったときに、ブックログのリストを見て欲しい本を買うことも出来ます。バーコードスキャン機能を使えば、図書館内で読みたいと思った本もすぐに登録できるので、貸し出し

冊数が上限に達しているときでも、図書館に行って次に借りるべき本のリストを作ることが出来ます。また、研究室にある蔵書の管理も、ブックログを使えば簡単に出来てしまいます。私のブックログのメインの本棚には、100冊ほどの本が仮想本棚に配架されています。全て読みたいと思っている本です。読んだ本は読了のタグをつけて非表示にしています。読みたい本のリストが100冊あるのは、何かしら贅沢な気分です。良い本に出会いたい欲求は、十分満たされてしまいます。

今では、私の読書フローが以下のように確立されました。

1. 書店やネットで本と出会う
2. 気になる本をブックログに登録する
3. 本を買う（または図書館で借りる）
4. 本を読む
5. ノートに本の内容をまとめる
6. ブックログに本のレビューを登録する
7. ブックログの読書状況を編集
8. 本の内容をノートで見返す

読書としてインプットされた情報を、アウトプットすることで、読みっぱなしにせず、理解を深めて自分の知識として定着させることにも、ブックログは使えます。

ブックログで“知のネットワーク”を形成する

このブックログは、学生さんにも是非使ってもらいたいアプリです。教員が学生さんに本を紹介する際には、学生さんに自分のブックログのフォロワーになってもらって、書評を読んでもらえば良いのです。逆に学生さんのブックログのフォロワーになれば、その学生さんが最近どんな本を読んで、どう思ったかが分かります。そういう情報交換は、とても大切だと思います。これこそまさに、“知のネットワーク”です。本を通じた相互理解で、“人と人の絆”も深まると思います。また、図書館のブックログを是非、皆さんに見て頂きたいです。残念ながら、本学図書館本館のブックログをフォローしている人数は、2015年1月現在で12人、枚方分館は40人です。あまりにも少ない人数だと思います。本来なら学生さんの在籍人数くらい（卒業生を含めるとさらにもっと多く）フォローしてもらえると、広く深い“知のネットワーク”を形成することが出来るのではないかと思います。学生さんたちには、図書館のブックログを是非活用して、在学中に、そして卒業してからも良い本にたくさん出会って欲しいと願ってやみません。

摂南大学図書館本館のブックログ：

<http://booklog.jp/users/setsunanlib>

摂南大学図書館枚方分館のブックログ：

<http://booklog.jp/users/setsunanhira>

検索による未発見歴史資料の発掘

経済学部 准教授 牧野 邦昭

現代ではインターネットが発達し、書籍や歴史資料のデジタル化も進んでいるために、検索することで様々な情報を手に入れられるようになった。それによってこれまで見つからなかった、あるいは存在を知られていなかった歴史資料が一昔前では考えられなかったような形で容易に発見できるようになった。その例として、筆者が近年研究している、ある「秘密組織」に関係した歴史資料がどのように発見されたかを紹介したい。

太平洋戦争開戦前、日本陸軍は仮想敵国であるアメリカとイギリス、同盟国のドイツとイタリア、そして日本の経済抗戦力（軍需物資の生産能力や戦費負担力）を調べるため、秋丸次朗主計中佐を責任者として有沢広巳、中山伊知郎、森田優三、武村忠雄ら多くの経済学者を動員した「陸軍省戦争経済研究班」という組織を結成した。同組織は実際の活動をカモフラージュするため対外的名称として「陸軍省主計課別班」を用い、「秋丸機関」と通称されていた。しかしその報告書については、戦後の有沢広巳による「秋丸機関の最終的な結論は対米英開戦の無謀さを指摘したため、開戦を決定していた陸軍の意に沿わず、報告書やその他の資料はすべて報告直後に焼かれてしまった」という証言に基づき、存在しないものとされてきた。有沢の死後に東京大学経済学部へ寄贈された蔵書の中から1991年に秋丸機関の報告書『英米合作経済抗戦力調査（其一）』が発見された（現在はオンラインで公開されている

<http://www.lib.e.u-tokyo.ac.jp/digitalarchive/rare/5512339978.pdf>）が、その後も他の資料については存在しているのかどうか、また刊行されたのかどうか分からない状態であった。

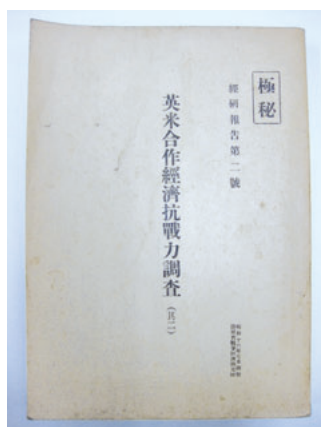
筆者は2008年春に京都府立図書館で、有沢と親しかった経済学者の脇村義太郎が、秋丸機関の対外的名称が陸軍省主計課別班だったことに回想で言及しているのを讀んだ際、「通称ではなく対外的名称で秋丸機関が作成した資料が残っているのではないか」と思い付き、何気なく同図書館のOPACで「陸軍省主計課別班」を検索したところ、

実際に同班名義の資料が所蔵されているのを発見した。これは戦前に京都帝国大学経済学部教授を務め、戦後は京都府知事を務めた蜷川虎三の蔵書が同図書館に寄贈された中の一冊であった。このことから秋丸機関の資料は意外に多く残っており、また関係していた人物がかなり広範囲に渡ることが推測された。京都大学 OPAC で検索しても「陸軍省主計課別班」名義の資料が多く見つかり、これらの調査結果を基に拙著『戦時下の経済学者』（中公叢書、2010年）で秋丸機関について論じた。

2013年初め、筆者は秋丸機関について再び調べることにし、手始めに国立公文書館アジア歴史資料センター（<http://www.jacar.go.jp/>）で「陸軍省主計課別班」名義の資料を検索したところ、多くのデジタル化された秋丸機関の資料を発見し閲覧できた。さらにGoogle Books（<https://books.google.co.jp/>）による検索で、満鉄（南満州鉄道）の関係組織である社団法人東亜経済懇談会の刊行物の中で秋丸次朗中佐が「経済戦」について述べている記録を発見した。Google Books は書籍の全文検索サービスであり、著作権保護期間が満了した書籍は全文を閲覧できる。Google は各国の大学図書館と提携して書籍の電子化を進めているが、日本では慶應義塾大学との提携によって同大学所蔵の多くの戦前の書籍が閲覧できるようになっており、今回発見した資料もその一つであった。さらに国立情報学研究所が運営する大学図書館を中心とする書籍検索サービスであるCiNii Books（<http://ci.nii.ac.jp/books/>）で検索したところ、それまで発見されていなかった秋丸機関の正式名称「陸軍省戦争経済研究班」名義の『独逸経済抗戦力調査』が静岡大学附属図書館に所蔵されていることを見つけ、同図書館に本学図書館を通じて閲覧申し込みを行い、閲覧および調査を行った。その結果、『独逸経済抗戦力調査』は『英米合作経済抗戦力調査（其一）』と並ぶ秋丸機関の報告書であり、1941年の独ソ開戦直後の時点でドイツの経済力の限界を指摘していたものの、日本は資源を確保するために南方に進出するべきであると具体的な戦略を提案していたこと

が判明した。その内容は拙稿『『独逸経済抗戦力調査』（陸軍秋丸機関報告書）—資料解題と「判決」全文』（『経済学史研究』第56巻第1号、2014年）で紹介した。

さらに2014年7月、筆者は東京都古書籍商業協同組合が運営する古書データベース「日本の古本屋」（<http://www.kosho.or.jp/servlet/top>）で検索したところ、『英米合作経済抗戦力調査（其一）』と対をなす秋丸機関の報告書『英米合作経済抗戦力調査（其二）』が東京都目黒区の古書店で販売されているのを見つけて購入した。



『英米合作経済抗戦力調査（其二）』表紙（筆者撮影）

同報告書の「例言」では「本調査は報告第一号調査英米合作による経済抗戦力の大きいさの測定に関連して、その構造上における弱点を確認し、その弱点の性格を検出してその全関連的意義を闡明することにより経済抗戦力の戦略点を究明するに在り。」と書かれており、また目次に「英米圏経済抗戦力の構成的弱点の検討」と書かれており、英米の弱点と言える部分を調査したということが強調されている。実際に内容を見てみると、イギリス単独では弱点といえる場合でも、アメリカとの合同で考える場合には大半で弱点らしい弱点を見つけることはできていないため、よく読めば対英米開戦の無謀さは判断できる。しかし陸軍の研究機関であるという限界からか、英米の弱点といえるものとして島国であるイギリスの地理的条件と

船舶輸送力の不足が指摘されており、それが『英米合作経済抗戦力調査（其一）』の「判決」に書かれていた「船舶輸送力を攻撃することによるイギリス経済の崩壊」という戦略に反映されていることが判明した。

またアジア歴史資料センターからオンラインで閲覧できる1942年刊行の「陸軍省主計課別班」名義の資料において『英米合作経済抗戦力調査』について「当班が既に刊行頒布したる」「当班がさきに提供したる」と言及されていることから、少なくとも1942年時点で『英米合作経済抗戦力調査』が「頒布」「提供」されて存在していたことがわかる。さらに現物の『英米合作経済抗戦力調査（其一）』が有沢の蔵書中から発見されており、『英米合作経済抗戦力調査（其二）』『独逸経済抗戦力調査』も発見されている以上、「報告書が1941年の報告直後に焼却された」という証言は事実ではなかったことが明らかになった。以上の内容の詳細は2015年3月刊行予定の『摂南経済研究』第5巻にて掲載予定である。

以上、検索を利用して歴史のある事実が明らかになった例を紹介した。その気になれば多くの情報が検索によって得られる現在、歴史資料そのもののや、それに関する情報を入手することは以前と比べて飛躍的に容易になっている。しかし当たり前の話だが、検索だけで研究ができるわけではない。多くの研究書や論文、そして現物の資料を読み込み、仮説を立て、鍵となる適切な言葉（キーワード）を見つけ出さなければ、むやみに検索しても必要な情報を入手できないのは言うまでもないことである。筆者も実際には今回の研究で多くの紙の書籍や論文を読んでおり、さらに研究会などフェイス・トゥ・フェイス・コミュニケーションの場で他の研究者から直接多くの貴重な情報をご教示頂いている。今回は「適切な検索」によって多くの情報を知ることができるという一例を示したが、オンラインで「適切な検索」をするためには、オフラインでの多くの作業があって初めて可能になるものであるということを改めて強調しておきたい。



ビブリオバトル特集

1 年次法学基礎教育におけるビブリオバトルの可能性と残された課題

法学部 准教授 城内 明

はじめに

2014 年度前期、筆者が学部 1 年次の法学基礎演習 (15 名) における新たな試みとして取り組んだのがビブリオバトルである (ビブリオバトルの詳細については、公式ウェブサイト等を参照)。本稿は、この試みの実際と成果を報告し、その豊かな可能性を示すとともに、法学基礎教育におけるビブリオバトルの活用につき、残された課題を共有することを目的とする。

本年度授業内容

まず、本年度実施した授業内容であるが、バトルは 3 回行い、選書について、図書館所蔵の本であることのほか、第 2 回は新書限定、第 3 回は法律 (関連) 書限定との制限をかけた。各バトルの準備期間は 3 週とし、その間に選書・読書・バトル対策を行った上、第 1・2 回については 2 部屋 (7 人・8 人) に分かれてバトルを行い、各部屋のチャンプを決した。第 3 回については、2 週に渡り 15 人でバトルを行い、各週のチャンプと総合チャンプを決した。準備期間、教員は、一人一人に、その時点で本の何を面白いと感じているのかを聞いて回り、この関心をさらに発展させるため、関連するニュースを話題にするなどのアドバイスを行った。

授業成果

以上の授業の成果は、以下の 3 点である。第 1 に、少なくとも半期に 3 冊の本を読ませることができた。たった 3 冊とはいえ、読書習慣のない学生にとっては、それ自体が貴重な体験である。特に、専門に関わる本を 1 冊読み通す経験は、図書館の専門書コーナーの位置を覚え、そこに自分にも読解可能な本が置かれていることを知るという意味で重要であると考えられる。

第 2 に、ビブリオバトルにより、全ての学生に発表の機会を与えることができた。1 年次の演習は、本人の希望と関係なく配属されるため、実力・意欲共、個人によりバラツキがある。例年、何人かの学生は、特に積極的な参加・発言をしないまま 1 年を過ごしてしまうこととなりがちであった。質疑を含め、たった 21 分 (7 分 × 3) とはいえ、能動的に授業参加せざるを

えないバトルの経験は、学生の「お客さま」意識を払拭するために一つのきっかけとなりうると考える。

第 3 に、1 年生の段階で、聞き手を意識した報告 (プレゼン) の重要性を体感する機会を与えることができた。どんな方法を用いてもいいから、5 分間で聞き手に本の魅力を伝えられた人がチャンプになる、というビブリオバトルは、「聞き手」の存在という報告 (プレゼン) の本質を理解するために最高の教育の場となりうる。実際、全員とはいかないものの、何人かの学生は、バトルの経験を経て、伝えるための工夫にまで踏み込んだ準備を行うようになった。

残された課題

一方、本授業には、課題も残った。第 1 に、ビブリオバトルが本来前提とする、「この本の面白さを伝えたい」という想いに欠けるバトルが、少なからず見受けられた。考えてみれば、授業の一環として読んだ本を、感銘を受けたか否かとは関係なく紹介する学生が大多数である以上、こうした想いの存することが、むしろ例外となるのは致し方ないのかもしれない。しかし、伝えたい想いがなければ、バトルが聞き手を意識することもないのであって、ビブリオバトルの教育効果は半減する。学生の「気づき」が本質である以上、教員がプレゼンのあり方を教え、その技法を実践できていたかを評価基準とすることもできない。授業の一環としてビブリオバトルを行うことの難しさを改めて認識させられた。

第 2 に、バトルの経験を積むに従って、学生側に、「悪慣れ」が生じてしまった。第 1 回バトルでは、5 分間しゃべり続けること自体が未知の経験であって学生は緊張し、真剣に準備をしていた。結果、巧拙は別として、真摯なバトルが随所にみられ、大きな成果が得られた。しかし、経験を重ね、バトルの 5 分間を持ちこたえるために最低限すべきことがわかってくると、元々が、好きな本を皆に知ってもらいたいという内発的な欲求があってバトルしているわけでないため、一部の学生は、その最低レベル以上の努力をしなくなってしまうのである。



第3に、ビブリオバトルは個人戦であり、バトルの経験だけでは集団としての達成感が得られないことも、ゼミ教育として無視できない。従来、筆者の1年ゼミでは、統一テーマを学生の発案・投票で決定し、このテーマの範囲内で関心ある内容について個々に研究・発表した上、ゼミとしての研究成果を、学生自身の編集によりライブラリーニュースレターに公表していた。克服すべき問題は残るものの成果物が公表されることで得られる達成感と、それによって得られる自信は、得がたいものであった。

次年度の構想

以上の通り、ビブリオバトルには、1年次における法学基礎教育として大きな可能性がある一方、所期の教育効果を得るためには、まずは、学生に「伝えたい想い」のあることが前提となる。また、ビブリオバトルだけでは、集団としての達成感を得ることも難しい。この反省に立ち、次年度は、上記の従来方式にビブリオバトルを組み込み、自ら選択したテーマを研究する過程で読んだ本（ないし論文）についてのバトルを実施することを予定している（前期に2回程度）。統一テーマで研究していても何に関心をもち、どのような切り口で問題を把握するかは、学生により異なる。未読の本の存在を知ることは、自分の研究にも有益であろう。学生が「本を通して人を知る」、「人を通して本を知る」機会となればと考えている。

「ビブリオバトルを体験して」 経営学部経営学科4年 勝又 希美

私は本（主にフィクション物）が好きだ。自分ではない誰かが頭の中で作り上げた世界を知ることワクワクするし、その中で紡がれる物語を文字を通して辿っていくのが楽しくてしょうがない。漫画も好きだが、やはり文字がいい。気持ちのいい台詞回しや、比喻などを交えた言葉選びは絵では表現できないからだ。そんなこんなで、私は昔から本が好きだったし、好きだからこそ、色々な人に自分が読んで楽しいと思ったものを読んで欲しいと思っていた。けれど、私の周りには本好きは1人もおらず、「活字なんて読んで楽しくない」とまで言われていた。本は素晴らしいものの、誰も理解を示してくれない。悔しい思いを抱いて、私は読書をしていた。

そんな私にきっかけを与えてくれたのが、ゼミの先生に勧められたビブリオバトルだった。最初はただ先生に出て欲しいと言われて参加したのだが、結果として想像以上に楽しかった。最初は面倒なことを押し付けられたなと思ったが、今では機会を与えてくれた先生に感謝してもしきれない。

私が、ビブリオバトルを良いと思った点は2つ。まず、友人にただ本を紹介するのではなく、公に誰かに本を紹介できるという点。普段なら「興味がない」と切り捨てられる所だが、ビブリオバトルではそうではない。皆が皆、私の話を、私が面白いと思った本の説明を聞いてくれる。今までは誰も見向きもしなかったのにだ。純粋に如何に本が好きなのかを堂々と話せる事がたまに嬉しかったし、どうやって話せば興味をもってもらえるかと考えるのも楽しく感じた。

もう1つは、自分が知らない本に出会えることだ。今まで自分が見向きもしなかった本が、話を聞くことによって急に興味深い物に変わるし、読書に対する視野が広がった。今まで読まなかった本に対して、損をしていたなあと思える本に出会えることもある。

ビブリオバトルは、何の気兼ねも要らないゲームだと思う。自分が好きな本や、自分が大好きな作家さんが作る世界を人前で話すことができ、ルールも簡単で誰でも参加できるゲームだ。自分の好きな本を紹介し、おまけに読みたい良い本が見つかる。人前で話すと言うことでちょっとの勇気は必要になるが、プレゼン力はつくように私は思う。

本が大好きだけど周りに話を聞いてくれる人がいない方は、是非、気軽にビブリオバトルに参加してみたい。きっと、素敵な本に出会うことができるだろうから。



枚方分館ニュース

データベース利用講習会の開催

図書館には「本」などの冊子だけでなく、インターネットを利用したデータベース（以後 DB という）や DVD・CD などの電子資料も所蔵しており、利用者の学習・研究などの情報提供をしています。これらは図書館のホームページに紹介しており、その多くは関係するサイトへジャンプし、容易に利用することができます。

電子資料は、概ね感覚的な操作で容易に必要な情報を得ることができますが、ちょっとした予備知識や工夫があればさらに有用な情報がより多く得られるようになります。

そのため図書館では、日常的な利用者個々への利用案内などに加え、図書館が行う学習支援活動の一環として資料の利用効果を高めるため DB 利用講習会を実施しました。

発行元の専門家を招いたり、図書館スタッフによる実用例の紹介を行ったり、初歩や応用をはじめ裏技や様々な規則など幅広く提案することができ、参加者からも「便利で参考になった」と好評を得ました。図書館では、こうした利用者向けの情報提供を今後も継続的に実施する予定です。



「医中誌 Web」利用講習会（図書館利用者 PC コーナー）



「ヨミダス歴史館」利用講習会（第1情報処理演習室）

▲教育用 DB「医中誌 Web」利用講習会

—看護研究に備えて—

日 時：2014 年 4 月から 7 月の期間に 6 回実施

所要時間 約 60 分間

場 所：枚方学舎 2 号館 2 階 図書館枚方分館

対 象：看護学部 3 年次のゼミ単位などの希望者

◀読売新聞 DB「ヨミダス歴史館」利用講習会

—教育情報収集ツールとして—

日 時：2014 年 7 月 2 日（水）16 時 40 分～17 時 40 分

場 所：枚方学舎 5 号館 3 階 第 1 情報処理演習室

対 象：教職員、院生、学部生

分館限定で読書ラリー「YOMOCA（ヨモカ）」実施

読書習慣を促進し図書館利用や資料の活用性の向上を図るため、初の利用者参加型イベントの読書ラリー「YOMOCA（ヨモカ）」を 2014 年 10 月 1 日（水）から 2015 年 2 月 28 日（土）まで枚方分館限定で実施しました。貸出図書の返却時に、読んだ図書を紹介する POP コメントなどを提出する度にポイントが集まり、既定のポイント数に達すると記念品が与えられ、貸出冊数が増加できる優遇措置が適用されるなど楽しみと特典があります。

スタートした時期は秋の読書週間が近く、開催初期には毎日のように次々と参加申し込みのエントリーがありました。

また、この読書ラリーに参加した読者からの POP コメントは、館内展示やブックログ（インターネット上の仮想本棚、末尾に案内）で紹介され、読書の楽しさなどを伝えるなど新たな仲間を誘っていました。

図書館では、こうした読書習慣の輪が大きく広がれば全学的な催しものとして実施したいと思っています。

利用者参加の選書フェアを開催

2014年6月30日（月）から7月4日（金）に行われた選書フェアでは、すべての利用者共通に利用できる図書館配備用に医・薬・看護学を中心に 500 冊を超える現物の図書を持ち込んで分館内の特設ブースで開催しました。会場には、自由に利用者が訪れ実際に図書を手に取って選書することができます。

期間中、学生 14 名と教員 22 名から寄せられた沢山の購入希望の内、重複所蔵の点検や流通在庫の調査などを経て 156 冊の図書について購入手続きをしました。こうした利用の要望がある図書は、利用者への早急な提供を目指して8月初旬までに受入処理を行い、既にすべての図書が利用可能になっています。



選書フェア（学術雑誌ゾーン特別ブース）

《2014年度特集展示一覧》

No.	時期	展示内容
1	5月	レポート・論文術
2	6月	セルフメンテナンス
3	8月	選書フェアで選ばれた本
4	10月	宇 宙
5	11月	レイチェル・カーソンと環境
6	12月	創薬研究と医薬品開発
7	2月	散 歩

また、集められた希望図書は、お聞かせいただいたご要望などへの報告を兼ねて特集展示物として館内のコーナーに展示を行い、多くの利用者の目に触れるよう公開しました。

今年度の特別展示のテーマ内容は上記の一覧表のとおりで、その時期に合わせて身近な話題や興味を引く事案などから選び、ひとつのテーマの展示期間を1か月から2か月間で紹介しています。もちろん手に取った図書を利用することもできます。

一方、研究用資料を対象とした外国書籍中心の選書会を7月22日（火）から3日間実施し、現物図書の展示と大手書店の資料情報網を利用した書籍情報の案内を行うなど、研究活動に必要な図書資料や教育情報の提供などを行い、訪れる教員も多く、種々の問い合わせで忙しい場面もありました。

図書館では、利用者皆様の声を大切にした情報提供サービスを日常的に心掛けています。

本学図書館の関係サイトの URL はこちらです。

図書館ホームページ……………<http://www.setsunan.ac.jp/sisetsu/tosho/>

図書検索（OPAC）……………<http://opac.lib.setsunan.ac.jp/webopac//topmnu.do>

摂大図書館ポータルサイト…<http://ufinity01.jp.fujitsu.com/setsunan/>

枚方分館のブックログ……………<http://booklog.jp/users/setsunanhira>

本館のブックログ……………<http://booklog.jp/users/setsunanlib>

図書館利用者アンケート結果

図書館では利用者の皆さんの図書館に対する認識や要望を確認するため、毎年アンケートを実施しています。

今年度は昨年の11月から12月までメインカウンター付近にアンケート用紙を置いて入館者に回答いただきました。また、同時に図書館ポータルサイトでも回答いただき、ご協力ありがとうございました。今後の図書館運営に活かしたいと思います。

本稿では、前年度との比較も含め、主な項目の集計結果をお知らせします。



1. 回答者数

166人(昨年度：132人) 〈ポータルサイト 48人(昨年度：12人)〉

【本館】 125人(昨年度：62人)

【分館】 41人(昨年度：70人)

2. アンケート集計

(1) 図書館をどの程度利用していますか。

本館	選択肢	教職員	学部生他	計(人)	比率(%)	前年度(%)
	ほぼ毎日	0	20	20	20.0	29.5
	週に2～3日程度	3	43	46	46.0	45.9
	週に1日程度	2	19	21	21.0	16.4
	月に2～3日程度	0	9	9	9.0	8.2
	月に1日程度	0	1	1	1.0	0.0
	試験期間のみ	0	1	1	1.0	0.0
	ほとんど利用しない	0	1	1	1.0	0.0
	その他	0	1	1	1.0	0.0

●回答者の66%が2～3日以上利用していると回答しています。

分館	選択肢	教職員	院・学部生	計(人)	比率(%)	前年度(%)
	ほぼ毎日	1	5	6	16.2	7.2
	週に2～3日程度	0	8	8	21.6	4.3
	週に1日程度	0	3	3	8.1	8.7
	月に2～3日程度	1	5	6	16.2	15.9
	月に1日程度	0	3	3	8.1	10.1
	試験期間のみ	0	9	9	24.3	30.4
	ほとんど利用しない	0	1	1	2.7	20.3
	その他	0	1	1	2.7	2.9

●前年度に比べ定期的な利用者が回答しています。

(2) 図書館資料のうち、次のどれを充実すべきだと思いますか。〈複数回答〉

項目	本館	比率(%)	分館	比率(%)
教養図書	30	25.0	15	38.5
専門図書	41	34.2	22	56.4
参考図書	30	25.0	13	33.3
視聴覚資料	19	15.8	1	2.6
国内学術雑誌	6	5.0	3	7.7
外国学術雑誌	7	5.8	3	7.7
一般雑誌	31	25.8	6	15.4
電子ジャーナル	1	0.8	0	0.0
電子ブック	9	7.5	1	2.6
データベース	5	4.2	0	0.0
新聞	7	5.8	0	0.0
シラバス掲載図書	4	3.3	5	12.8
資格取得関連図書	19	15.8	3	7.7
文庫本・新書本	46	38.3	22	56.4

●本館、分館ともに文庫本・新書本の充実を望む声が一番多い結果となっています。分館では専門図書も同数の希望がありました。次いで、本館では専門図書、一般雑誌、教養図書、参考図書、視聴覚資料、資格取得関連図書の順、分館では教養図書、参考図書、一般雑誌、シラバス掲載図書の順となっています。

※「その他」の記述式回答

・音楽や美術の専門書、パソコン(本館)

(3) 図書館の環境についてどう思われますか。

良い3点、普通2点、悪い1点として平均点を算出しました。

項 目	本 館	前年度	分 館	前年度
資料の配置	2.4	2.5	2.6	2.4
閲覧席	2.3	2.5	2.5	2.4
案内表示	2.4	2.5	2.5	2.3
静寂性	1.9	1.9	2.1	2.0
視聴覚設備	2.3	2.3	2.2	2.0
パソコン設備	2.2	2.3	2.2	1.9
環境全般	2.3	2.4	2.5	2.3

●本館、分館とも「静寂性」の評価が他の項目に比べやや低い結果となりました。

全般的に本館では平均点が微減傾向、分館では上昇傾向にあります。

※「その他」の記述式回答

- ・テスト期間になるとどうしてもうるさくなるのは困ります。たまにソファ席で横になって寝ている人も気になります。(本館)
- ・〈特にテスト期間中は〉話し声がすごい時があるので、徹底して注意するなり、ペナルティを与えるなりしていただきたい。(本館)
- ・施設そのものの環境としては良いが、それを利用する者の態度は問題視される点がある。(本館) 他
- ・図書館自体が静かな場所なので、小声で話されるだけでも響きます。本を読まずに話したいだけの人や、集団で勉強する人は別室に移動してほしい。(分館)
- ・うるさい人間は有無を言わず、退場させて下さい。(分館) 他

(4) 図書館の企画展示（特定のテーマの図書の展示）についてどう思いますか。

項 目	本 館	比率(%)	分 館	比率(%)
関心（興味）がある	42	33.6	22	56.4
あまり関心（興味）はない	60	48.0	11	28.2
企画展示は見たことがない	23	18.4	6	15.4

●分館では半数以上の方が関心（興味）を示していますが、本館ではあまり関心をもたれていないのが残念です。

※テーマの要望

- ・薬学・看護に関するもの以外も、もっと取り入れてほしい。(分館)

(5) 図書館のお知らせやサービス内容を主に何で知りますか。〈複数回答〉

項 目	本館回答数	比率(%)	分館回答数	比率(%)
ホームページ	31	26.3	3	8.1
Library Guide [冊子]	2	1.7	1	2.7
館内のパンフレット	16	13.6	2	5.4
館内の掲示	66	55.9	30	81.1
館外の掲示	19	16.1	10	27.0
図書館スタッフ	1	0.8	4	10.8
友人	14	11.9	1	2.7

●本館、分館とも「館内の掲示」「館外の掲示」が多く、次いで本館では「ホームページ」、分館では「図書館スタッフ」の順となっています。

(6) 次の目的で図書館を利用する場合、利用環境はどうですか。

良い3点、普通2点、悪い1点として平均点を算出しました。

項 目	本館	前年度	分館	前年度
レポート作成	2.3	2.5	2.4	2.3
自学、自習	2.4	2.5	2.5	2.2
グループ学習	2.3	2.4	1.8	2.0
図書閲覧	2.4	2.5	2.5	2.2
雑誌・新聞閲覧	2.3	2.4	2.3	2.2
視聴覚資料鑑賞	2.4	2.4	2.4	2.0

●本館・分館とも概ね2点(普通)以上の評価でしたが、分館では「グループ学習」の評価が低くなっています。

(7) 図書館スタッフの対応についてどう思われますか。

	良い	比率(%)	普通	比率(%)	悪い	比率(%)
本 館	47	41.2	60	52.6	7	6.1
分 館	30	81.1	6	16.2	1	2.7

●大半の人が「良い」との評価でしたが、引き続き今後もサービス向上に努めたいと思います。

学生がすすめる この1冊

『楊家将（上・下）』

北方謙三〔著〕 PHP研究所 2006年

舞台は中国。北宋の軍閥である楊家は、敵国遼との戦いや、その勇名の拡大を恐れる味方との軋轢の中、いかに振る舞い、そしてどこへ向かうのか。

ハードボイルド作品を多く打ち出して来た著者が簡潔な文章で描くこの物語は、魅力的な人物たちに彩られ、迫力を持って輝きます。やがて決戦の地へと集う彼等が皆、それぞれの色を読者に刻むでしょう。またシリーズの最初に位置するこの作品の空気は、それ全体を凝縮したようで、馥郁とした薫りを放ちます。生き様と、その結果としての死に様について、大いに考えさせられる作品です。



法学部法律学科2年 中條 宏樹

『しゃばけ』シリーズ

畠中恵〔著〕 新潮社 2001年～継続中

堅苦しくない時代小説が読みたい、面白いミステリーを探している、そんな方におすすめしたいのが「しゃばけ」シリーズです。

時は江戸時代、江戸の大道・長崎屋の1人息子である一太郎（通称若旦那）はめっぽう体が弱く、すぐに寝込むという病弱さながら、何故か妖怪を見る能力がありました。当シリーズは、そんな若旦那が妖怪達と協力し、事件を解決していくという内容です。



「しゃばけ」においては、妖怪達が非常にコミカルに描写されており、若旦那と妖怪達のどこか感覚のズレたやり取りには、クスッと笑ってしまいます。

暖かく柔らかな文章の中に、時に切なさや織り込まれる、不思議な雰囲気ゆりとしたあやかし時代小説です。

経営学部経営学科4年 勝又 希美

『家族シアター』

辻村深月〔著〕 講談社 2014年

7つの家族にまつわる短編集です。

①同じ学校に通う、真面目な姉とイケてる妹、②パンギャの姉とアイドルオタクの弟、③大学受験を控えた優等生の娘と心配性な母親、④教師にあこがれる息子と、大学准教授の父親、⑤宇宙を愛する妹と自分の普通さがコンプレックスな姉、⑥息子家族と一緒に暮らすこととなったおじいちゃん、⑦赤ちゃんを連れて帰省する若い夫婦。



自分は家族の悪口を言えるけど、人には言われたくなくて…。家族だから照れくさくて、お互い言葉に出さないからすれ違うこともあるけれど、それでもどこかで想いあっている。そんな優しい短編集です。

この作品を読んで大切な人に気持ちを伝えてみてはいかがでしょうか。

法学部法律学科2年 川崎 真理

『学校では教えてくれない！ 国語辞典の遊び方』

サンキュータツオ〔著〕 角川学芸出版 2013年

どれも同じじゃないの？これって機械が作ってるの？どうせ勉強のための教材なんでしょ？そのようなイメージを国語辞典に抱いたことはありませんか？

この本を読んだ今、私は以上の疑問に「No」と答えることができます！ 実は国語辞典は奥深い読み物なのです。ただの教材でとどまるような物ではありません！それを教えてくれたのがこの本でした。

この本を読み終わったあと、国語辞典のページをめくりたくなり、私は三省堂国語辞典を買ってしまいました。それはこの本を読めばわかるはずです！

この本の著者は芸人でありながら、大学で日本語の講師もされているので、読みやすさはお墨付きです！ この後に「舟を編む/三浦しをん 著」も読めば、辞典作りの裏側の世界を垣間見ることができるでしょう。



経営学部経営情報学科2年 大久保 瑞紀

『昨夜のカレー、明日のパン』

木皿 泉〔著〕 河出書房新社 2013年

人の死が他人に与える影響は様々です。誰でも「死」に向かい合わなければいけない時が来ます。この物語は、夫を亡くしたテツコと息子を亡くしたギフを軸に、様々な人との出会いを通して二人が変化していく姿が描かれています。特に大きな出来事が起こる訳でもないですが、淡々と過ぎていくありふれた日常に少しずつ変化が生じます。「悲しいけれど幸せな気分になれる」。そのことに気づけたとき、人は「昨日」よりも「明日」を爽やかな気持ちで迎えられる。読み終えた後に暖かい気持ちにさせてくれる作品です。この物語を通して毎日の生活を大切に思ってもらえれば幸いです。



法学部法律学科2年 湯守 亜美

『池袋ウエストゲートパーク』

石田衣良〔著〕 文藝春秋 2001年～継続中

東京の池袋西口公園近くの果物屋の息子・真島誠（マコト）は、「池袋のトラブルシューター」とも呼ばれ、依頼されて難事件を次々と解決し、住民の幸福と池袋の秩序維持を目指す。独特な語り方と自分への利益も顧みず依頼をこなしていく主人公の生き様がカッコいい、そんなストーリーです。宮藤官九郎の脚本でドラマ化もされた作品です。空き時間にどうぞ。



薬学部薬学科2年 戎 有貴

『思い出のとき修理します』

谷 瑞恵〔著〕 集英社 2012年～継続中

もしも「過去」を修理できるとしたら、あなたはどうしますか？仕事にも恋にも疲れ、都会から引っ越してきた美容師の明里は、子供の頃に過ごした思い出の商店街へやってきた。「思い出のとき修理します」という奇妙なブレードの店を見つけ、そこで出会ったのは、ちょっと不思議でやさしい時計屋さんでした。心温まるストーリーいっぱいの連作短編小説。ホッとしたい時にお薦めです。



(同 上)

図書館利用統計

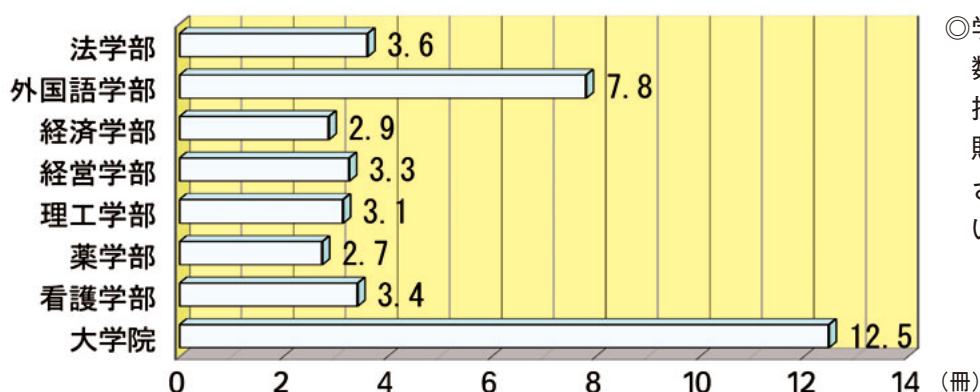
図書館ではより良い図書館運営のために利用状況の調査、アンケートの実施などを行っています。
ここでは2012・13年度の利用状況と、今年度の貸出トップ10について報告します。

図書館利用状況 (2012年度、2013年度実績)

区 分		本 館	分 館	計
開 館 日 数	2013 年度	280日	288日	568日
	2012 年度	276日	285日	561日
入 館 者 数	2013 年度	284,943人	87,750人	372,693人
	2012 年度	299,054人	92,888人	391,942人
貸 出 者 数	2013 年度	17,425人	3,341人	20,766人
	2012 年度	19,002人	4,017人	23,019人
貸 出 冊 数	2013 年度	35,983冊	6,621冊	42,604冊
	2012 年度	37,780冊	7,886冊	45,666冊

◎2013年度は開館日数の増加に反して、すべての項目において数値が減少となりました。学内からアクセス可能な電子資料（電子ジャーナルやデータベース、電子ブック）が増えたことも一因として考えられますが、対策を検討したいと思います。

2013年度 学部別1人当たり貸出冊数



◎学部では外国語学部の貸出数が突出しています。授業での図書館利用指導の賜と言えます。他学部の皆さんもっと利用して欲しいと思います。

2014年度4月～12月 貸出トップ10

順位	タイトル／著者／出版社	貸出回数
1	永遠の0(ゼロ) / 百田尚樹 / 太田出版	18
2	祈りの幕が下りる時 / 東野圭吾 / 講談社	16
3	学年ピリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話 / 坪田信貴 / KADOKAWA	16
4	とっぴんばかりの風太郎 = Toppin parari no Pootaro / 万城目学 / 文藝春秋	15
5	昨夜(ゆうべ)のカレー、明日のパン / 木皿泉 / 河出書房新社	15
6	人生はニャンとかなる! : 明日に幸福をまねく68の方法 / 水野敬也・長沼直樹 / 文響社	15
7	村上海賊の娘 上巻 / 和田竜 / 新潮社	14
8	虚ろな十字架 / 東野圭吾 / 光文社	13
9	女のいない男たち / 村上春樹 / 文藝春秋	12
10	少年事件の実名報道は許されないのか : 少年法と表現の自由 / 松井茂記 / 日本評論社	11

◎2014年度もメディアで話題になった本や映画化された本、その関連本がよく読まれ、傾向としてはやはり人気作家の小説の貸出が多くなっています。ベストセラー作品も積極的に購入していますので、ぜひ利用してください。



※資格・就職に関する本を除いたランキングとなっています。

2014年度

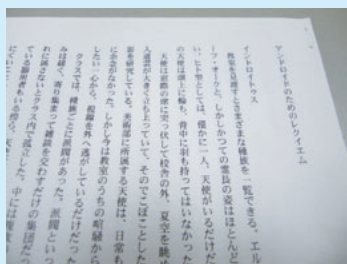
「摂大文化大賞」入賞作品決定!!

図書館では、学生諸君の文化的創作意欲を奨励するため「摂大文化大賞」を設け、優秀な作品を表彰しています。今年度も募集を行ったところ、4部門にわたり22点の応募がありました。審査の結果、下記の通り11作品が受賞し、表彰式は2014年12月17日(水)図書館本館1階フロアで行われました。なお、2015年度も「摂大文化大賞」を開催しますので、多数の応募作品をお待ちしています。

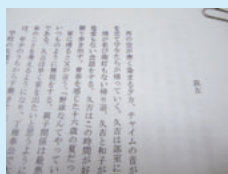


参加者で記念撮影

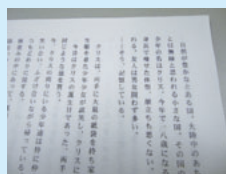
部 門	賞	作 品 名	作 者	
			所属・学年・氏名	
文 芸	大賞(小説)	アンドロイドのためのレクイエム	法学部2年	中條 宏樹
	部門優秀賞	真友	理工学部(M)4年	三野 一樹
	部門準優秀賞	馬車でどこまでも	理工学部(E)4年	桂木 俊輔
美術・工芸	部門優秀賞 (同点受賞※)	中国 100 万年の歴史	経済学部4年	岡田 麻里
		コタツは日本の文化	理工学部(E)3年	松田 拓也
写 真	部門優秀賞	美翼に映る宵の明星	経済学部4年	山内 麻衣
	部門準優秀賞	nature	理工学部(C)4年	黒川 知己
その他	部門優秀賞	風がおもてで呼んでいる	理工学部(E)1年	萩原 友輔
	部門準優秀賞	旅行記 2014	薬学部5年	坂口 朋美
審査員特別賞		透明なボク	外国語学部3年	楠本 礼奈
		鋼鉄に咲く花	外国語学部3年	田中 晶大



大賞
【アンドロイドのためのレクイエム】



文芸部門優秀賞
【真友】



文芸部門準優秀賞
【馬車でどこまでも】



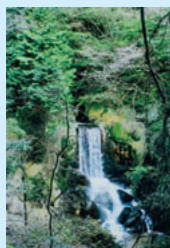
美術工芸部門優秀賞
【中国 100 万年の歴史】



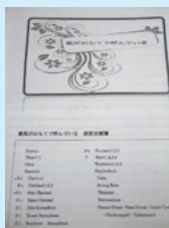
美術工芸部門優秀賞
【コタツは日本の文化】



写真部門優秀賞
【美翼に映る宵の明星】



写真部門準優秀賞
【nature】



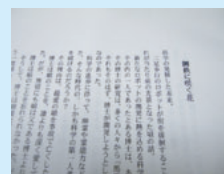
その他部門優秀賞
【風がおもてで呼んでいる】



その他部門準優秀賞
【旅行記 2014】



審査員特別賞
【透明なボク】



審査員特別賞
【鋼鉄に咲く花】

<編集後記>

- ・本号で特集した「ビブリオバトル」については、先生方や学生諸君の協力もあり、2014年度に図書館が関与したものだけでも学内で13回開催できました。全国大会地区ブロック予選開催など、その認知度の向上においても一定の成果をあげることができました。残念ながらあと一步のところまで全国大会出場はできませんでしたが、本学学生諸君の頑張りにより将来の期待大です。全国的な広がりを見せるこの「ビブリオバトル」の普及について、2015年度も引き続いて図書館では努力していきますので、ご支援よろしくお願い致します。
- ・図書館では2015年度に学生諸君に読ませたい古典・名著を集め、本学のタグライン“Smart and Human”を冠した推薦図書集の作成を予定しています。ご協力のほどよろしくお願い致します。

Smart and Human

摂南大学

「学而」 摂南大学図書館報 No.96 2015.3

本館 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8 TEL.(072)839-9111

分館 〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1 TEL.(072)866-3102

URL: <http://www.setsunan.ac.jp>